

# 平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果概要

今年4月21日（火）に全国学力・学習状況調査が実施されました。

その目的等、調査の概要と本町における調査結果の概要をお知らせいたします。

## (1) 調査について

(1)	調査目的	◎国が、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図る ◎各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る
(2)	実施日	平成27年4月21日（火）
(3)	対象校	町内全小中学校
(4)	調査対象	小学校・6年生（児童47名） 中学校・3年生（生徒77名）
(5)	調査内容	①教科に関する調査（国語・算数・数学 及び理科） <u>＜主として「知識」に関する問題（A問題）＞</u> 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う問題 <u>＜主として「活用」に関する問題（B問題）＞</u> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした問題
		②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 <u>＜学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査＞</u> （例）国語の勉強は好きですか、授業の内容はよくわかりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況など
(6)	各教科の領域	小中学校国語・・・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 小学校算数・・・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」 中学校数学・・・「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」 小学校理科・・・「物質」「エネルギー」「生命」「地球」 中学校理科・・・「物理」「化学」「生物」「地学」

## (2) 結果一覧

<小学校>	国語A	国差 県差	国語B	国差 県差	算数A	国差 県差	算数B	国差 県差	理科	国差 県差
神石高原町	75.3	－	74.1	－	81.9	－	51.8	－	69.3	－
全国	70.0	5.3	65.4	8.7	75.2	6.7	45.0	6.8	60.8	8.5
県	73.8	1.5	69.7	4.4	77.7	4.2	46.7	5.1	63.2	6.1

<中学校>	国語A	国差 県差	国語B	国差 県差	数学A	国差 県差	数学B	国差 県差	理科	国差 県差
神石高原町	77.3	－	70.0	－	61.9	－	39.9	－	55.1	
全国	75.8	1.5	65.8	4.2	64.4	▲2.5	41.6	▲1.7	53.0	2.1
県	76.5	0.8	67.0	3.0	64.6	▲2.7	42.7	▲2.8	52.2	2.9

### (3) 各領域別の調査結果と今後に向けて

#### 小学校

##### ○教科に関する調査

国語	小学校 A					小学校 B				
	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
神石高原町	75.3	65.2	89.1	63.6	80.7	74.1	—	70.0	77.4	—
全国	70.0	53.0	86.0	55.2	77.2	65.4	—	61.1	68.1	—
県	73.8	58.0	88.4	58.1	81.2	69.7	—	66.3	72.2	—
対県比	1.5	7.2	0.7	5.5	▲0.5	4.4		3.7	5.2	

算数	小学校 A					小学校 B				
	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
神石高原町	81.9	87.9	78.3	72.8	84.8	51.8	52.7	36.2	53.4	49.3
全国	75.2	80.1	71.3	64.5	84.9	45.0	42.4	41.7	45.6	43.0
県	77.7	82.3	76.9	66.4	85.5	46.7	43.7	42.4	47.6	43.9
対県比	4.2	5.6	1.4	6.4	▲0.7	5.1	9.0	▲6.2	5.8	5.4

理科	教科全体	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	物質	エネルギー	生命	地球
		神石高原町	69.3				
全国	60.8	61.3	60.5	57.4	65.6	61.2	57.8
県	63.2	63.6	62.9	59.6	68.5	63.2	60.1
対県比	6.1	7.4	5.4	3.8	5.1	11.8	6.4

- ・国語は、A問題・B問題共に全国の平均正答率を上回っている。また、A問題・B問題の平均正答率の差があまりないことから、学力は概ね定着していると言える。領域別では、A問題「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が県平均を下回っている。
- ・算数は、A問題・B問題共に全国の平均正答率を上回っているが、B問題の平均正答率は51.8%であり、活用する力等に課題がある。領域別ではA問題「数量関係」、B問題「量と測定」が県平均を下回っている。
- ・理科は、全体・領域別共に全国及び県の平均正答率を上回っており、学力は概ね定着していると言える。

##### ○生活・学習に関する調査

- ・県、国を大きく上回ったのは次の質問項目である。
  - 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」(県+23.9, 国+27.1)
  - 「週に1回以上図書館に行く」(県+21.4, 国+17.2)
  - 「家で自分で計画を立てて勉強する」(県+19.6, 国+22.0)
  - 「『総合的な学習の時間』では自分で課題を立てて情報を集め整理し発表している」(県+18.2, 国+19.0)
  - 「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある」(県+15.9, 国+18.7)
  - 「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」(県+28.7, 国+31.3)
  - 「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」(県+26.2, 国+28.8)
  - 「理科の授業で自分の考えを説明したり発表したりする」(県+36.0, 国+38.6)
  - 「理科の授業で観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返る」(県+20.9, 国+24.2)
- ・県・国を大きく下回ったのは次の質問項目である。
  - 「算数Bの調査問題の解答時間は十分であった」(県-24.8, 国-26.8)

## 中学校

### ○教科に関する調査

国語	中学校 A					中学校 B				
	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
神石高原町	77.3	83.9	77.0	87.9	73.2	70.0	76.7	43.4	66.7	—
全国	75.8	79.7	73.6	86.1	72.9	65.8	72.2	36.7	62.6	—
県	76.5	80.5	74.8	86.8	73.4	67.0	73.2	39.0	63.9	—
対県比	0.8	3.4	2.2	1.1	▲0.2	3.0	3.5	4.4	2.8	

数学	中学校 A					中学校 B				
	教科全体	数と式	図形	関数	資料の活用	教科全体	数と式	図形	関数	資料の活用
神石高原町	61.9	62.2	63.1	59.9	61.6	39.9	63.0	36.0	28.5	30.1
全国	64.4	67.7	63.4	61.7	63.0	41.6	63.2	39.0	30.7	31.2
県	64.6	67.2	64.5	62.0	62.5	42.7	64.1	39.9	31.3	33.8
対県比	▲2.7	▲5.0	▲1.4	▲2.1	▲0.9	▲2.8	▲1.1	▲3.9	▲2.8	▲3.7

理科	教科全体	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	物理	化学	生物	地学
神石高原町	55.1	61.3	52.7	47.7	60.3	69.4	45.7
全国	53.0	63.8	48.8	48.9	56.2	62.2	46.4
県	52.2	61.2	48.7	47.7	55.8	60.9	45.6
対県比	2.9	0.1	4.0	±0	4.5	8.5	0.1

- ・国語は、A問題・B問題共に全国の平均正答率を上回っている。また、A問題・B問題の平均正答率の差があまりないことから、学力は概ね定着していると言える。領域別では、A問題「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が県平均を下回っている。
- ・数学はA問題・B問題共に、県平均を下回り、特にB問題は平均正答率39.9%と、課題が大きい。領域別に見ても、全ての領域で県平均を下回っている。
- ・理科は、全体・領域別共に県の平均正答率を上回ってはいるが、全国と比較すると下回っている領域もあり、また、教科全体として60.0%に満たないことから、定着が十分であるとは言えない。

### ○生活・学習に関する調査

- ・県・国を大きく上回ったのは次の質問項目である。
  - 「週に1回以上図書館に行く」(県+17.4, 国+16.4)
  - 「自分で計画を立てて勉強する」(県+19.2, 国+26.6)
  - 「復習をする」(県+31.3, 国+35.7)
  - 「今住んでいる地域の行事に参加する」(県+32.5, 国+36.1)
  - 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」(県+23.5, 国+30.4)
  - 「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」(県+20.3, 国+26.0)
  - 「『総合的な学習の時間』では自分で課題を立てて情報を集め整理し発表している」(県+18.7, 国+27.0)
  - 「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」(県+18.2, 国+23.4)
  - 「国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」(県+14.3, 国+23.0)
  - 「国語の授業で意見を発表するとき、話の組み立てを工夫している」(県+19.2, 国+25.5)
  - 「理科の問題について、文章で書く問題を最後まで書こうと努力した」(県+19.4, 国+26.3)
- ・県・国を大きく下回ったのは次の質問項目である。
  - 「平日、テレビゲームを1時間以上する」(県-13.8, 国-15.3)
  - 「平日、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上する」(県-15.8, 国-20.3)
  - 「授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることは難しい」(県-5.0, 国-6.9)

<今後に向けて>

○今回明らかになった課題について、各学校において児童生徒の誤答を分析し、授業改善に活かす。特に、基礎的な事項の確実な定着と、児童生徒の課題に対する意欲を向上するような授業展開の工夫に向けた取組を一層推進する。